平成27年12月14日産業建設委員会協議会
資料No．１－１

写

提　言　書

飯田市産業振興審議会

1　総論

【計画等の進め方について】

・本審議会では、飯田市次期総合計画や飯田市版総合戦略の地域産業の活性化について審議した。この飯田市次期総合計画、飯田市版総合戦略と地域経済活性化プログラムは、連携して取り組まれたい。
・今後の展開を大胆に進めるために、現状を維持する戦略と新たに展開する戦略とに分け、将来への重点課題を整理されたい。また、事業実施の中で、産業界がすべきこと、行政がすべきことの役割を仕分け、実行されたい。
・産業経済を良くするには、「人口を増やす」あるいは「突出した何かを持つこと」の２つが必要である。
・市が実施する政策は、個別分野の将来展望を含め検討されたい。また、リニア開通に向けての目標を具体的に検討されたい。
・行政の計画には難しい言葉があるので、市民に示すときは、具体的でわかりやすい言葉にされたい。
・行政は、地産地消や観光のおもてなしといった市民教育の視点も入れて、市民ぐるみの施策展開を検討されたい。
・今回の議論も提言書という形で出されるが、ぜひ効果のフィードバックをされたい。
・地域経済活性化プログラムについては、目標に向けていかに取り組むかということが大事で、それは行政だけでは意味がなく、市民や産業界が意志を持って取り組むことが重要である。
・地域経済活性化プログラムの分野ごとの事業計画を掲載しているので、分野を横断する事業にも取り組まれたい。リニア開通に向けて各分野がリンクしながら、交流人口増加にむけて取り組んでいく体制が必要である。

【各取組の進め方について】

・施策を課ごと計画しているが、観光と農業などは関連するので、連携して取り組まれたい。例えば、農産物のブランド化で香港や台湾に売りこむならば、当然、観光もあるし、市田柿をＰＲするということもある。
・国勢調査の就業状況について１０年前と比べると、飯田のサービス業が非常に増加している。所得の波及効果を考えるうえで、構造が変わってくる。経済自立度７割を目指して、達成を掲げているので、どのように取り組むかが今後の課題である。
・既存産業でがんばっている企業への支援も検討されたい。
・信用で成り立つ地域通貨などコミュニティビジネスを検討されたい。例えば、他自治体で、議員報酬の二割を地域通貨で払う制度がある。域内需要を喚起する方策として検討されたい。
・林業分野では、飯田市には国県以外に独自の補助があるので継続されたい。併せて、搬出のための林道整備も推進されたい。
・公園がないという話があるが、これだけ身近に山があるので、公園よりも山を整備し、川をきれいにすれば、自然の公園となる。そういった地の利を活かす取組を検討されたい。
・農業人口が減る中で、農地が虫食い状態にならないために、農業を守る部分は守り、また、各地区の土地利用の中では、計画をしっかりと立て、農業振興地域の見直しも必要である。
・空き家の課題や農業の課題など、実行するには奥が深い課題なので、中心になる市の職員には若い担当者や、情熱をもってひとつの事業を長く担当してもらいたい。

2　飯田市版総合戦略（案）について

・飯田市版総合戦略は何をするかが大事である。他地域での取組も押さえながら、飯田なら何が提供できるのか、飯田だからできる生活スタイルの提案を検討されたい。
・市民の民意に沿った飯田市版総合戦略を検討されたい。

（1）若者が帰ってこられる産業をつくる（安心して働けるしごとづくり）について

・仕事をつくるために、仕事をもってくる外の客に対し、どのようなサービスが提供できるか、各々の分野にとらわれず意見交換されたい。
・ＩｏＴという言葉があるが、インターネットとローテクなものを組み合わせて、新産業へイノベーションを起こすという例がある。既存産業も活用できる計画も検討されたい。

ア　産業振興に寄与する知の拠点の形成について

・知の拠点の形成については、付加価値創出に重要だが、ハードにとらわれることなく、知の拠点が本来あるべき姿はどういうものか、付加価値を相対的にどう高めていくかということを考える必要がある。
・知の拠点の形成については、地域経済活性化プログラムに掲載されている７つの産業分野、製造業、農業、林業、観光、商業、金融、人材分野の集結も検討されたい。
・知の拠点の形成については、大学と地域、相互にとって有益で、かつ、他地域に比べて競争優位性のある資源を活用した学科の誘致を検討されたい。

イ　新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦について

【高付加価値化・ブランド化について】
・地域産業の高付加価値化、ブランド化のために、飯田の強みとなるキーワードを５から 10 項目ぐらいまとめ、それをどう生かすか検討されたい。
・文化を創出していくということに重点を置き、そして、外からのインバウンドも誘う飯田のブランディングを推進されたい。
・ものづくりの関係で世界中から来る客が、飯田は空気や食べ物がおいしく、自然が豊かだという評価をいただいており、そういったブランドの恩恵を受けている。いいところや誇れるところを見出し、誇れる、自慢できる飯田、そして飯田ファンをつくっていくことが必要である。
・ブランディングについては、「南信州」ブランドは、地域が広く、地域の特定ができない。専門家を呼んで研究されたい。
・「南信州」と「飯田」が話題になっていたが、私は、飯田下伊那地域ほど一体感がある地域は、ほかにないと思う。地域の経営戦略として地域ブランドとしての地域名は必要であり、過去に検討した経過があり「南信州」を多くの業界や団体が使っている。リニア駅名称の件もあり、今後の検討も必要である。
・ブランドは名称をつけることではなく、取組をすることによって、そのブランドが定着する。そのような取組を進められたい。

【各産業の高付加価値化について】
・農産物のブランド化については、農産物加工における付加価値創出のバックアップが必要である。
・飯田市は焼肉のまちを謳っているが、飯田にはと畜場がなく、と畜には松本まで行っている。もう一度、と畜場を飯田に整備することを検討されたい。さらに、牛肉は個々の農家でブランド化されているものもあり、今一度、中心市街地の焼肉店でのブランド化が必要である。
・マーケティングについては、ターゲットを絞るべきである。例えば、市田柿を若年層に売る際、富裕層の若年層もいるので、そこへのアプローチを検討されたい。
・農業分野については、市田柿の需要喚起として、小さくカットしてほかのものと混ぜて売ることも検

討されたい。
・農業については、６次産業化とあるが、それを担える人材や横断的にサポートする組織を検討されたい。
・飯田下伊那では、今年は松茸が豊作だったが、これは、早くから松くい虫の防除対策をしてきた成果である。今後も松くい虫被害木の対策を継続されたい。
・財貨を循環し、経済自立度を上げることが大切であるが、そのためには商業流通が肝心である。しかし、合理化競争で地域商業は厳しいので、地域で対等に競争できる仕組みづくりが必要である。
・商業については、小売店において、消費者に対して域内流通の商品の購入を促す地産地消の促進の仕組みを検討されたい。

ウ　地域産業の担い手確保について

【人材育成・担い手確保について】

・高校生の大半は、就職や進学で一度この地域を出ていき、帰ってこないケースが多い。この地域に戻ってきて、働いて生活ができる仕組みをつくられたい。
・飯田の新規求人における正社員割合は県内でも高いが、平均賃金は他の地域より低い。それを含めて高校生の地元就職や移住受け入れを考える必要がある。
・地域産業の担い手づくりは、今ここにいる人材を教育し、いかに世界に通用する人材に育てるかが重要である。今後は、ものづくりだけでなく、農業や観光分野における人材育成も合わせて検討されたい。
・産業界には、リーダーシップをとれる人材が必要で、外から呼べないなら、自分たちで育てるしかない。教育現場に、この地域には、どんな特徴があるかを、もっと理解してもらう働きかけをされたい。
・有能な人材は、どの地域でもほしい。この地域が何で突出するかということを見据えて政策を考える必要がある。
・人材育成は、地域の企業が技術ばかりではなく、マナーや地域貢献、企業理念などをしっかり教育していくことが必要である。
・地域産業の担い手確保については、大学進学のため外に出ていく学生を、いかに戻せるかということである。地元にどんな企業があるかを知らないため、戻ってこない。産業界がもっと学生や保護者にＰＲする取組を検討されたい。また、中学・高校へも出向き、企業が必要とする人材を中高生に伝える取組を検討されたい。
・地域に若者が帰ってこないという課題があるが、飯田市には地域研究で大学生が来ているので、大学生と一緒になった取組も検討されたい。
・教育については、高校への進学で終わりではなく、その先を追跡されたい。飯田に帰ってくる環境をつくるためには、高校卒業後についてもデータを積み上げる必要がある。
・地元高校生の支援については、豊かな人材育成につなげるため、高校卒業後、飯田で就職した子に対し、不安のある１年目や３年目、４年目を目途に、交流会や講習会などを検討されたい。
・ワークライフバランスという言葉があるが、ハードワークに耐えられるリーダーがいないとワーカーのワークライフバランスは成り立たない。そういったリーダーの育成に取り組まれたい。

【農業の担い手確保について】

・農業や林業の担い手不足ということだが、小さいころから農業や林業を学べる学校を検討されたい。
・農業の担い手誘致については、認定農業者の育成等により経営の向上につながる農業政策を進められたい。
・新規就農者の受入れをしているが、受入れで苦労するのは、農業に適した空き家を探すことである。新規就農者向けの空き家の方策を検討されたい。
・中山間地に農地が位置し、鳥獣被害が身近であり、遊休農地も増えている。現在、高齢就農者が多い中で、後継者育成に取り組まれたい。ワーキングホリデーや体験学習の受入れも、受入れ農家が高齢化しており、世代交代を考えなくてはならない。
・農業分野の展開は、まちづくり委員会や地区の農業振興会議など、地区毎に真剣に取り組まないと解決しない。

・「人・農地プラン」は地区のためになっているのか疑問である。リニア開通に向けた「人・農地プラン」を地元で作り直し、地区の将来を見つめて、今抱えている問題に真摯に取り組まれたい。
・市は、地区の農業振興会議の取組に対し、アドバイスや人的支援、必要に応じて資金的支援を検討されたい。
・小規模農家の支援にも取り組まれたい。
・行政が農業指導をされているが、農業に興味を持っている若者や女性が、もっと大勢参加できるような場づくりを検討されたい。

【林業の担い手確保について】
・農業や林業の担い手不足ということだが、小さいころから農業や林業を学べる学校を検討されたい。
・林業就労者は年々減少しているが、飯伊森林組合にも若い人は少ない。高校を出て林業に就きたいと考える若者へのサポートを検討されたい。
・林業の担い手の確保からも、農業と同じように林地を集約化して整備をするための制度を検討されたい。
・林業の６次産業化の推進で、意欲ある設計士・工務店などが、気候風土にあった建築などを研究することは、人材をつくるという意味でも重要であるので推進されたい。
・林業については、自伐林家を育てるためにも、木の駅プロジェクトを推進されたい。
・森と人の循環モデルを言う前に、山のゴミ等不法投棄の対策を検討されたい。また、山の手入れは、やはり山の所有者が整備・保全するのがよい。循環モデルとなるべく、市民が週末に動くことでお金を得られる制度を検討されたい。

【起業支援・創業支援について】
・しごとづくりは、帰ってくる会社をつくることだけではなく、自分のやりたいことを実現する、いろんな産業を興せる若者を増やすことを検討されたい。どのような産業でもよく、起業家、経営者をつくる、起業マインドを醸成されたい。
・飯田型地域金融の強化については、飯田市内の起業ばかりでなく、飯田の産業につながることであれば、都心での出店への支援も検討されたい。
・雇用定着のため、企業にはリスクがあるが、正規の雇用形態を増やすほうがよい。創業は大変であるが、創業者を増やすには、創業者への支援を検討されたい。

（２）飯田市への新しい人の流れをつくるについて

・新しい人の流れを作ることに関しては、一過性でなく、飯田ファンを増やし、地元と触れ合う機会があることが必要である。
・農業を活かして定住・交流人口を増やされたい。
・リニアによって飯田から都会へ人の流出も危惧されるので、その対策を検討されたい。

ア　飯田だから実現できるライフスタイルの提案について

【ライフスタイルについて】
・飯田だから実現できるライフスタイルの具体化に取り組まれたい。
・飯田だから実現できるという表現について、「飯田」の部分を他の市でも、できる施策なら意味がない。ここの地域の特徴を打ち出すなら、飯田だからできることをもっと模索し、突き出してほしい。
・飯田だからできるライフスタイルの提案について、市の職員が自ら新しい働き方、ワークライフバランスを実践されたい。それを市民の雇用や働き方に波及すればよい。

【多様な移住者・定住者への対応について】
・移住者を増やすためには、まず、まちのデザインを統括するプロデューサーの選定が必要である。
・都会で定年退職された方が、積極的に地方に移住し、組合にも入って、山に登って、のんびり老後を過ごしたいというニーズがとても増えている。移住者のターゲットとして、元気なシニア層も検討さ

れたい。地方の農地つき空き家を、都会のリタイア組は求めている。
・リニア開通に向けて、老後を健康的で空気のいいところで過ごしたいというニーズが飯田に向いている。ニーズに対応するため、大工の高齢化対策を検討されたい。
・若年層をＵＩターンで呼ぶことについては、特に自身が消費者であり販売者であるという小さな経済を作り出す、子育てをする女性を引き付けることも検討されたい。
・クリエーターは集積して知を磨いてこそ、クリエーターである。どのようなクリエーターを呼ぶか検討されたい。また、何に魅力を感じてクリエーターが飯田を選択したかの検証もされたい。
・定住人口を増やすためには、特徴ある教育機関も必要である。
・ＵＩターンの受入れについては、ハローワークがもつ人材の情報と産業界をつなぐシステムを検討されたい。
・農ある暮らしについては、農地を活用して、定住人口も増やされたい。また、市民農園を借りる方の中には、農業未経験者もいるので、農業指導など地域と連携した受入れ体制づくりにも取り組まれたい。
・移住したいと思っても、農地転用等の手続きで土地を手に入れるのに時間がかかり、途中で挫折する人も多い。土地がスムーズに手に入れられ、望むような建築物が提供できるよう検討されたい。
・空き家対策は、研究はなされているが、不採算な面もある。行政が空き家バンクについて検討されたい。

イ　「結のまち」飯田においでなんしょについて

【観光誘客について】

・飯田・下伊那地域は観光誘客で考えると「人が人に学ぶ研修の里」だと思う。リニアが開通したとき、これが「そうだ、飯田に行こう。」というブランドになるよう取り組まれたい。
・観光戦略については、地域素材からではなく、お客様の観点から検討されたい。お客様が何を望んでいるのか、外からの目線を常に持つことが必要である。
・観光については、ホームページのキーワードづくり、「こういうことをしたい」という検索に引っかかるように大胆に取り組まれたい。
・首都圏での知名度アップについては、首都圏といっても幅広く捉えられるので、範囲を決めてその地区と密な結びつきを検討されたい。
・貸し切りバスの制度が変わり、運賃が見直され価格が上がり、東京・関西からの日帰りツアーが売れなくなった。宿泊関連は回復してきたが、日帰りツアー関連の検討をされたい。
・観光分野について、民間と行政との連携を積極的に行い、面でお客を呼びこむ形にされたい。
・「結のまち」飯田においでなんしょの心をどう伝えるか。その方法として、あいさつを市民運動として取り組まれたい。他地域からきて、あいさつをされることで親しみが湧く。
・市街地、天竜峡、遠山郷など市内の主要観光地は、あまり知られていない。横のつながりを強化し、地元の人が地元を知り、みんなが広告塔となれるとよう取り組まれたい。
・飯田市は昨年、観光振興ビジョンを策定したが、天龍峡、遠山郷、中心市街地だけではなく、もっと伊那谷という広い範囲で検討されたい。
・観光分野は、各市町村がばらばらに取り組みをするのではなく、組織化して推進することも検討されたい。

【海外誘客について】

・外国人観光客は、地方都市まで入ってくる時代である。例えば飯田型ツーリズムによる「ほんもの体験」の取組など、もっと具体的にターゲットを絞り、パンチのある政策を検討されたい。
・外国人のインバウンドの促進については、自転車観光で台湾や香港に働きかけをしているが、そればかりでなく、農業や林業など地域で持っている資源といっしょになり、そこに訪れてもらえるような働きかけが必要である。これが、農業分野や林業分野の課題解決へも波及していく。
・観光で、海外へ売り出すなら親日的な国民性である台湾などを検討されたい。

【交通について】

・例えば、観光客がしらびそ高原に行きたいけれども、そこへのバスがない、ということを聞く。飯田市の二次交通について検討されたい。
・既存の交通業者では、リニア駅から十分な二次交通をつくるのに積極的になれない。一般の人たちがタクシー業を担ったり、宿泊業者が持っているマイクロバスを利用してバス事業を担ったりし、新しい配車システムを取り入れられる交通特区の申請を検討されたい。

【まちなか資源について】

・美しいまちには、公園が多い。リニア時代を見据え、飯田に人が来ることを考えると、借景に頼らない緑化計画を立て、商業の近くに据えるなど、長い目でまちに染み込む都市計画を検討されたい。
・まちに緑が足りない。緑化はまちの活性化には必要だと思うが、中心市街地に緑があり、歩いていて楽しい環境をつくるためにも、行政の部署間も連携し、緑のあるまちに取り組まれたい。
・りんご並木は改修の予定がある。緑を増やすことも考慮されたい。
・まちに買い物に来てもいつも駐車場がなかったため駐車場をつくったが、現在、利用状況は目標に達していない。このようなことも考慮に入れ、にぎわい創出を検討されたい。

【イベントによる取組について】

・まちの中に滞在する場所がなく、イベントがないと人が集まらない。イベントで集客ができても、それで普段のベースとなる事業を担えるのか。イベントは本来何をすべきか、イベントが普段の事業に活きるには何をすべきか、検討されたい。
・「人形劇のまち飯田」は、この地域のブランド力になるし、「小さな世界都市」の柱にもなる。飯田といったら人形劇となるように、皆に認知してもらえるよう取り組まれたい。
・人形劇フェスタ、お練り祭りややまびこマーチなど、飯田市ではたくさんイベントを実施している。しかし、宿泊者は、そのときに宿が取れなくては意味がない。人形劇を春夏秋冬、それぞれ開催するなど、時期を分散したイベントを実施されたい。

【名勝天龍峡について】

・天龍峡大橋を活用した天龍峡活性化について、大橋、遊歩道、交流館といったハード面の整備に留まらず、実益として観光客をどう増やすかを、商業の力、特に若手の商業者と一緒になって検討されたい。
・天龍峡は、景勝地をＰＲする戦略的な映像が必要である。また、遊歩道などのハードは整ってきているが、ソフト面、ここにくればリンゴがある、桜がきれい、野菜も食べられるといった資源の再整備が必要である。
・天龍峡には花が少ない。地域ぐるみで、どこへ行っても花が出迎えてくれる風景を検討されたい。
・天龍峡の観光の大きな柱である舟下りのルートについては、行政でも検討されたい。
・天龍峡観光事務所は、三遠南信自動車道が、上久堅まで開通しても、ぜひ継続されたい。

ウ　企業の地方移転・拠点の機能強化について

・企業誘致に際し、この地域の強みは何か、何をもって特化するのか検討されたい。企業誘致については、どの地方都市も同じことを考えている。
・企業の地方移転については、リニアの駅に最先端医療施設の研究機関の併設や国立病院の誘致も検討されたい。
・地方の企業立地については、労働者が十分に確保できないが、必要ならば他地域からも人は来る。そこで、ハローワークだけではなく、人材派遣会社などともネットワーク化して、人材確保の検討をされたい。